

老馬鍛冶山不動尊 横浜市都筑区中川 3

霊泉の滝周辺は江戸時代の旧大山街道(国道 246 号線の前進)の道筋で、江戸より第一日目の宿場町として栄えました。「荏田宿常夜燈」や「下宿庚申塔」寛政 5 年(1793 年)のものが早瀬川にかかる鍛冶橋のそばに残されています。

伝承によると、江戸時代末期新潟の高田郡の座不動からある修験者が、不動明王像を背負って現横浜市都筑区あたりにやってきた。夕暮れとなり近くの大久保家の世話になった。これが縁となり修験者は大久保家の婿養子となった。滝を掘って荒行に励んだが旦那寺に預けた不動明王が紛失してしまい、また越後に戻って不動明王を勧進した。その不動明王を祀ったことが始まりとされています。本堂でお賽銭を入れようと手を伸ばしたらピーツという電子音、普段は人がいないので、お賽銭泥棒除けでしょうね。

霊泉の滝の滝不動尊は誠に靈験あらたかです。この地域に雨の降らない時に雨乞いをする
と必ず降りました。昔から喘息・百日咳・風邪ひきなど、お水を戴きながらお願いすると必ず治癒しました。この滝にある石仏の不動明王は新潟高田から勧進したある修験者《諦念法師》の作と伝わっています。また、この滝壺を掃除したり石仏にバケツで水をかけると大雨になるとの言い伝えがあります。



下宿庚申塔



本堂



稲荷神社



滝不動 不動明王

